

寶圓山 天福寺

星まつり

令和七年

乙巳

二月二日 (日)

午前十時より開始

参拝時、またはお電話、FAX、メール等でもお申込随時受け付けております。
～お申込・お問い合わせ～



延岡七福神弁財天靈場 真言宗 醍醐派
ほうえんざん みょうおんいん てん ぶく じ
寶圓山 妙音院 天福寺

公式LINEのご登録、LINEからのお
申込はこちらのQRコードをLINE
アプリから読み取ってください

〒882-0061 宮崎県延岡市小峰町6981番地
電話 0982-39-0537 Fax 0982-27-6274 Mail bentenpukuji@gmail.com

ほし 星まつりの由来

ほし

星まつりは、年の変わり目（節分）に、その回り星をまつり、悪い年は悪事災難を逃れるよう、良い年は一層良くなるよう祈る、いわゆる厄払いの行事です。

節分を迎え七難即滅、七福即生の祈禱を修します。節分にまく豆は「魔滅」の意味だとも言われます。

当寺では、（節分）に星まつりを行い、お申込された方一人一人に御札を授与します。

祈願札料 1人 500円 当日午前9時より、柴燈大護摩修法にて祈願
祈願札をお申込ご希望の方は、1月20日頃までに、お申し込み下さい。
ご参拝の方には、「招福豆」をお渡し致します。
節分の豆まきに加えていただき、家のお祓いに使います。



祈願札、表面右下に厄払いの色である朱色にてお名前を書き入れます。



（火渡りの様子） お子様でも渡れるよう、一般の方向けには渡し板の上を歩いていただきます

当日、古札や御守り・しめ飾り等の御払い焼きも致します

お焚き上げご希望の方はお持ち下さい

別冊 開運暦冊子の見方

年齢早見表 3 ページ

本命星、年齢、数え年、干支はこちらのページで確認できます。

例

一 白 水 星	八 歳	十 七 歳	二 十 六 歳	三 十 五 歳	石 榴 木 辛 酉 四 十 四 歳 (45) 昭 和 五 十 六 年 生 1981
	(9)	(18)	(27)	(36)	
	2017	2008	1999	1990	

令和5年に満42歳になる方の例

- 年号での生まれ年、西暦での生まれ年
- 漢数字が満年齢・算数字が数え年、**厄年を見る時はこの算数字の方の年齢で確認してください。**
- えと。六十干支で書いてあります。十二支は下の文字。この例ですと酉年
- **本命星**。自分の生まれ年が書いてある欄の一番左をご確認ください。

九曜星（毎年巡る星、またその運勢） 6 ページ

当年の自身の星の吉凶を確認できます。自分の数え年の書いてある欄の星を確認してください。

自身の本命星の運勢 22 ページから 31 ページ

九星での運勢を確認できます。自身の年齢早見表の欄に書いてあります。

- の位置に記載されております星のページをご確認ください。

厄除け特別祈願

男 25 歳、42 歳、61 歳 女 19 歳、33 歳、37 歳、61 歳（ともに数え年）は厄年と言われます

特に数え歳で男 42 歳、女 33 歳は大厄とされ前後を含め 3 年間は、心身共に注意すべき時であり社会的にも、身体的にも重要な時期でもあります。

当寺では随時、厄除け祈禱を受付けております。

一、特別祈願料 五千元 厄除け守護木札授与 令和 7 年 厄年・厄明け年齢早見表

	前厄	本厄	後厄	厄明
男性	24 歳 平成 14 年生	25 歳 平成 13 年生	26 歳 平成 12 年生	27 歳 平成 11 年生
	41 歳 昭和 60 年生	42 歳 昭和 59 年生	43 歳 昭和 58 年生	44 歳 昭和 57 年生
	60 歳 昭和 41 年生	61 歳 昭和 40 年生	62 歳 昭和 39 年生	63 歳 昭和 38 年生
女性	18 歳 平成 20 年生	19 歳 平成 19 年生	20 歳 平成 18 年生	21 歳 平成 17 年生
	32 歳 平成 6 年生	33 歳 平成 5 年生	34 歳 平成 4 年生	35 歳 平成 3 年生
	36 歳 平成 2 年生	37 歳 昭和 64 年生 平成 元年生	38 歳 昭和 63 年生	39 歳 昭和 62 年生
	60 歳 昭和 41 年生	61 歳 昭和 40 年生	62 歳 昭和 39 年生	63 歳 昭和 38 年生

星祭で厄除け特別祈願をお申込された方は、火渡りの行、厄除け守護祈願にて住職が守護木札を堅持して火上を歩き、激を入れます。

本番が一番大事ではありますが、そこに至るまでの準備を疎かにすると本番で苦勞をすることになります。また、本番終了後の片づけや事後処理などを疎かにすると、そちらも後々苦勞をすることになります。

前厄、後厄はいわば本番（本厄）の下準備、事後処理の期間です。本厄だけでなく、前後の厄も非常に大事とされております。

護摩祈禱について

護摩祈禱（ごまきとう）とは、炎中に供物を捧げ、願いの成就をご祈願するというお大師様（弘法大師空海様）が伝承されてきた密教の秘法です。

星祭の際にはこの護摩祈願の中でも修験道を修する宗派にのみ伝えられる『柴燈護摩』（さいとうごま）という祈禱法で厳修させていただいております。

柴燈護摩とは、堂内で修する通常の護摩とは違い、野外で行う大規模な護摩法要でございます。

添護摩木（そえごまぎ）について

添護摩木とは、願い事の成就を祈るため裏に願い事を書き入れ護摩を焚く時に炎の中に投じる木札です。

護摩祈願の際にはこの添護摩木を、皆様に火中に投じて頂く時間があります。

添護摩木は 1 体 300 円でお授けしております。
当日受付にてお求めください。

また、当日ご参拝ができない方も行者が祈願を込めて炎の中に投入いたしますので、ご希望の方はお寺までご連絡ください。



添護摩木

※願い事の書き方は一例です。
〇〇できますように といった書き方でも構いません。自由にお願い事を書いてください。



願意例一覧					
当病平癒	諸願成就	交通安全	身体健勝	商売繁盛	家内安全
事業繁栄	安産祈願	必勝祈願	開運成就	良縁成就	息災延命
除災招福	合格祈願	家門繁栄	家業繁栄	五穀豊穰	家運隆昌



様々な厄の種類

一般には「前厄・本厄・後厄」の3つが認知されておりますが、実際には大きく分けて3種類の厄があります。

イ、厄災（年齢の厄） ロ、方災（方位の厄） ハ、六三（身体の厄）

イ、厄災（やくさい） 特別祈願料：金、5000円

厄災は生涯において数回やってくる運気の不安定な時期の事で、様々な変化が生じ易い年となります。人生の節目となるような大きな事柄が次々と起こりやすくなると言われております。

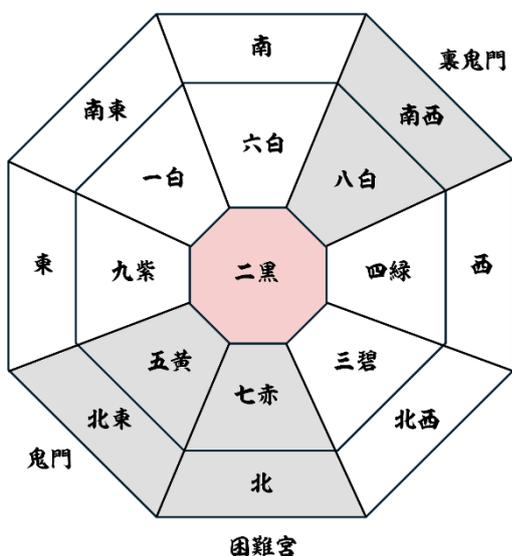
（例）結婚、離婚、失恋、出産、死別、新居、転居、転職、失業、病気等
そのため、人によっては何かと大変な年になります。

悪い年周りになった時、「何事もなく無事に災難から逃れられますよう、苦勞に押しつぶされないように」と、不安を取り除き、楽な気持ちで過ごせるように厄除けの祈願をお勧めしております。

厄災の年齢については、「厄除け特別祈願」のページをご参照ください。

ロ、方災（ほうさい） 特別祈願料：金、5000円

自身の運命を司る星（本命星）は産まれた年によって決まるので一生変わる事はありません。この本命星は毎年、「方位盤」と呼ばれる吉凶凶のいずれかの位置に入ります。その位置を見てその年の自身の吉凶や方角の吉凶を占い、方災を除くものが方位除けです。



本命星が凶の位置に入る方

- 鬼門（北東の位置）
 - ・五黄土星の方
- 裏鬼門（南西の位置）
 - ・八白土星の方
- 八方塞がり「中央の位置」
 - ・二黒土星の方
- 困難宮「北の位置」
 - ・七赤金星の方

方災除は、生まれながらの本命星の年回りがよくない時のご祈願です。

- 八方塞がり（静観宮）：本命星が中央に回座する年は、八方をすべて塞がれ、どの方角に事を起こしてもうまくいかないとされています。
- 衰退運（困難宮）：本命星が北に回座する年は、最も運気が停滞する年です。次の飛躍への準備の年とされています。
- 鬼門（変化宮）：本命星が北東の表鬼門に回座する年は、何事にも変化・変動が多く、運気も衰えがちになります。けがや病気にも注意が必要とされています。
- 裏鬼門、病門（準備宮）：本命星が南西の裏鬼門に回座する年は、鬼門と同様に忌み警戒されています。衰退の運気が徐々に好転しはじめますが、無理は禁物で、特に年の前半は要注意とされています。

本命星は別冊の暦、年齢早見表でご確認ください。

ハ、六三（ろくさん）除け 特別祈願料：金1000円

六三除は年齢による身体の部分的な厄除けです。薬の処方を受けていても効果が現れにくかったり、病気の原因がはっきりしないときは、六三に当たっている場合があります。

数え年を9で割り、余りの数字で判断します。数え年は、満年齢に1才加えた数です。満年齢の10才は数え11才となります。

余りの数に対する場所は下図のようになります。男性と女性とでは肩、脇、足の左右が異なります。六三に当たる場所と、具合の悪い場所とが一致する場合は、六三除の御祈禱を致します。

また病気では有りませんが、出産の時期にお腹の周辺（2・6・8）が六三に当たっている場合は、軽く出産が出来るように六三除をしたりもします。

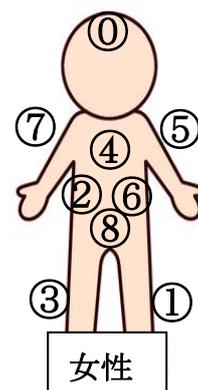
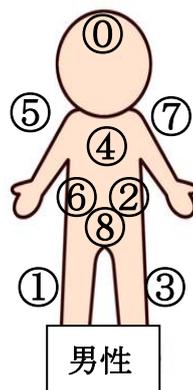
例、数えで42歳の男性

$42 \div 9$ は4余り⑥

⑥右の脇腹が六三に当たっている

女性の場合は逆側

左の脇腹になります



なぜ星祭を節分に行うのか？

昔は各季節の始まりの日

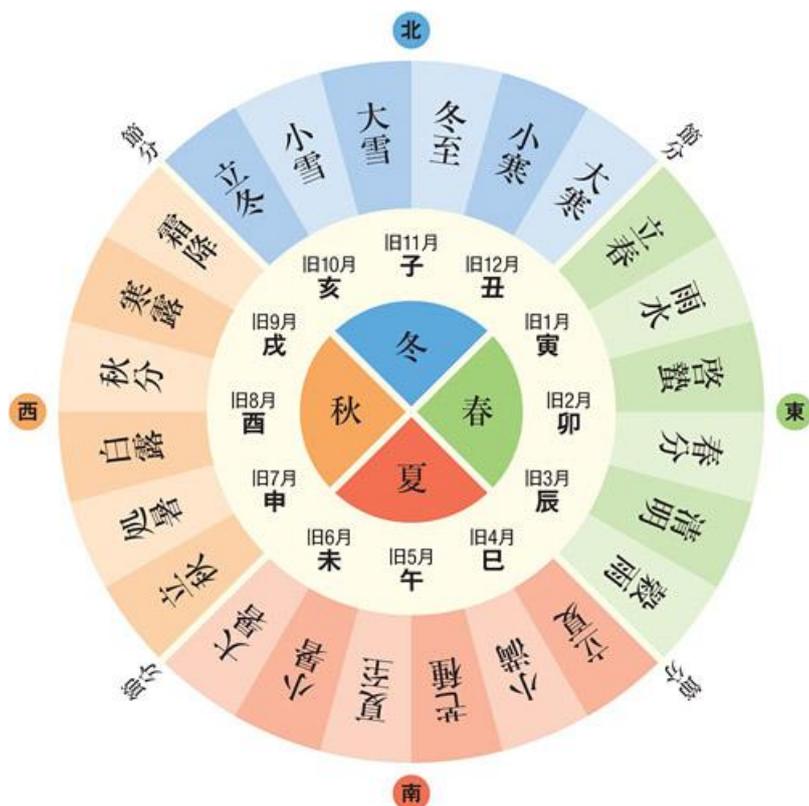
(立春・立夏・立秋・立冬)

の前日をそれぞれ節分と呼んでおりました。節分とは「季節を分ける」事を意味しております。

旧暦では、春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分は大晦日に相当する大事な日でした。

昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、旧暦の年の初め

の前日に厄除けや邪気払いの行事を行い、迎える年がより良い年になるようにさまざまな邪気祓い行事が行われてきました。おなじみの豆まきも、新年を迎えるための邪気祓い行事です。



星祭各種厄除祈願、交通安全祈願、合格祈願等の申込について

お申込は別紙の申込書にご記入いただき、お申込ください。

お申込ご希望で当日のお参りが難しい方がいらっしゃれば、お寺までお知らせください。星祭で御祈願をさせていただき後日お札、御守等ご郵送させていただきます

参拝時、またはお電話、FAX、メール等でもお申込随時受け付けております。

～お申込・お問い合わせ～

延岡七福神 弁財天霊場

真言宗 醍醐派

ほうえんざん みょうおんいん
寶圓山 妙音院

てん ぶく じ
天 福 寺



公式 LINE のご登録、お申込は
こちらの QR コードを LINE ア
プリから読み取ってください

〒882-0061 宮崎県延岡市小峰町6981番地

電話 0982-39-0537 Fax 0982-27-6274 Mail bentenpukuji@gmail.com